

「#(ハッシュタグ)」とは、SNS等で特定のテーマについて検索して一覧表示する機能のことです。大分県内の農林水産業の中から選りすぐりの話題を大分県拠点からお届けします。

「大分☆農・カーボンプロジェクト」第2回勉強会で活発な論議

環境に優しい有機農業が 今こそ評価されるべき！



「大分☆農・カーボンプロジェクト」では、農林水産分野におけるカーボンニュートラルの理解を深めることを目的に、令和3年12月の第1回に続き、生産者、企業、消費者団体等を参集して、第2回勉強会を3月15日に開催しました。今回の勉強会のテーマは「有機農業」。NPO法人おおいた有機農業研究会河野事務局長の講演、(株)安心院オーガニックファーム平子代表取締役の取組発表のあと、有機野菜の価格、売り場、消費者の意識と効果的なPRなどについて活発な意見交換がされました。参加者からは、「環境負荷をかけない有機農業はもっと評価されて良い」といった意見のほか、「課題解決に向けた現実的な話が聞けて有意義だった」「今後も(農林水産分野以外の)異業種の方々と意見交換したい」等、次回勉強会に向けて期待する声が多く聞かれました。



前回に続き、生産者をはじめ、農林水産分野以外の事業者、消費者団体、マスコミ、自治体等、多くの方にご出席いただきました



有機農産物は販売する場所が少なく消費者の認知度が上がらないのが課題(おおいた有機農業研究会河野事務局長)

「地に足をつけた循環型農業」の一環として地域の資源で優良な堆肥作りを続けることが企業価値を高めることにつながっている(安心院オーガニックファーム平子代表取締役)



このプロジェクトでは、勉強会だけでなく恒常的にご意見を寄せていただき、課題解決を探っていく場としたい(大分県拠点石橋地方参事官)



「大分☆農・カーボンプロジェクト」のフェイスブックを立ち上げました！！



農業者との意見交換

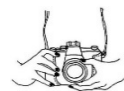
大分県拠点では「現場と農政を結ぶ」ことを目的に生産者・事業者との意見交換を実施しています。以下、最近行った意見交換先をご紹介します。

目標は現代版の「百姓」になること

戸倉江里（中津市）
令和4年3月10日



中津市耶馬溪町で主食用米などの無農薬栽培に取り組んでいます。理想は”半農半カメラ”で、農業現場や田舎暮らしの「ありのまま」を撮影し、フリーパーやJA下郷のカレンダーを作ったり、SNSを通じて消費者へ情報発信しています。また、たんぼの開放も行って、「つどう、たんぼ」をテーマに、日々の農作業を一緒に行い生産者と消費者の境界線をゆるく、ゆる〜くしています。主人は、山仕事や農業の傍ら、映像作家をやっています。



第53回大分県農業賞（企業的個人経営部門・最優秀賞）を受賞

宇留嶋雄蔵（杵築市）
令和4年3月14日



親の後を継いで就農して以降、水田の農地集積や作業受託を拡大し、耕作放棄地の防止に取り組むとともに、販売先との信頼関係を構築して契約栽培を基本に経営しています。また、ドローンによる防除や肥料を改善するなど新しい技術を取り入れ収量増を実現しています。株式会社URUSHIMA企画を立ち上げ長男も経営に加わり、今後も、地元根差した経営を続けていきます。（写真は、賞状はじめ、お祝いの花束が飾られた事務所）



総合化事業計画認定証交付式が行われました！

大分県拠点は、令和4年3月16日に杵築市において、令和4年2月28日に6次産業化の総合化事業計画の認定を受けた本田バラ香園に対して、関係機関同席のもと認定証の交付と意見交換を行いました。

（本田バラ香園さん）「自農園で生産したバラを使った花瓶等容器が不要でアレンジした高級感のあるボックスフラワーを開発しました。宿泊施設や消費者に販売する取組で経営発展や地域の活性化を目指します。」

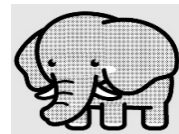


さとうきび&チモシープロジェクト続報



別府・日出さとうきび研究会は、新たに作付面積を増やした別府市堂面棚田で、アフリカンサファリのアジアソウに食べさせるさとうきびの作付けをしました。棚田では2年目、栽培自体は取組3年目となります。サファリの動物たちの糞も肥料として活用し、環境にやさしい栽培に取り組んでいます。4月には契約調印式を予定しています。（写真は3月17日の苗の定植の様子）

また、久住高原農業高校が栽培するチモシーは、5月に一番草の収穫を迎えます。



【発行元】九州農政局大分県拠点地方参事官室
【連絡先】〒870-0047 大分市中島西1-2-28 TEL 097-532-6131

本紙掲載の記事は大分県拠点のHPでもご覧いただけます。

大分県 地域農政

